

自作の温灸器に排煙設備の工夫……そこまでこだわるのは、渡辺氏が温灸に特別な治療効果を感じているからだ。

「温灸をした皮膚はじっとりと汗をかくんですが、これはほかのものでは再現できない、艾による灸だからできること。身体はこの反応を欲しているんです。艾は古い治療だけど、今でも身体が一番求めている治療だと思いますね」

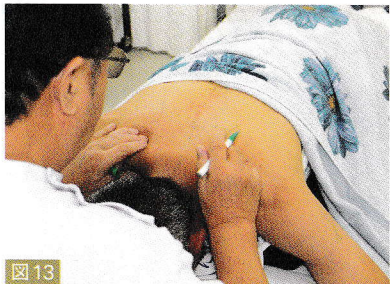


図13



図14

治療点を決めて刺鍼し（図13）、温灸器の中心に鍼が入るように設置。灸頭鍼のような状態になる（図14）。灸の灰は温灸器の中に落ちるので、患者に落ちるリスクが少なく、また紙筒を上下に移動することで温度調節ができるなどの利点がある



図15

排煙筒と煙を漏らさないためのビニールシートを備えた装置。キャスターが付いており簡単に移動させることができる

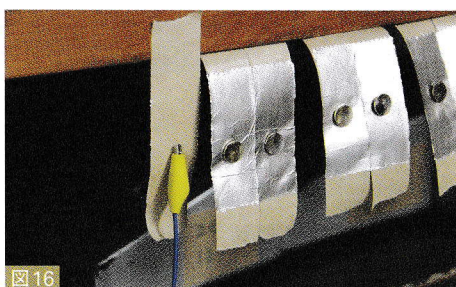
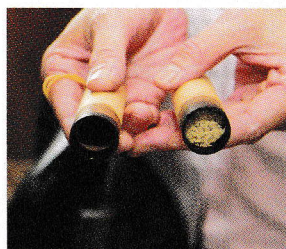
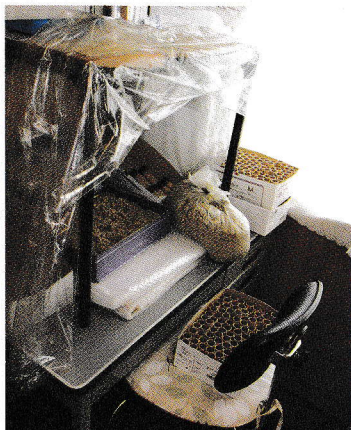


図16

パルス通電の道具。ガムテープの接着面にアルミを貼り、そこに画びょうを刺しジェルを塗布して画びょうの頭の部分を肌に貼付する。パルスは画びょうの針先に装着する

Column

[艾を紙筒に詰める作業場]



◀▲ 治療院の外には艾を紙筒へ詰める作業をする専用の小屋がある。艾の細かい繊維が舞ってしまうのでビニールを降ろし、そのなかで作業をする